

(即ち倒し寸法の誤差の限界) 出来上りの形について、6点の実物製作により考察した。

23 衿幅と衿腰の数理的關係及び簡便な作図法

名古屋市立女子短大 住田八重子

衿幅と衿腰の合法的な關係が今後の被服工作を指導する上に於て重要なポイントとなることに着眼して、種々な条件のもとに数理的に考察してみた。この度は標準寸法による一定の原型を用い、折返り線を第二線、衿腰を3種と、二つの点を固定して衿幅を3.5 種から16 種(原型の肩幅を13 種として肩幅までの衿幅)、持出しを0種から10 種まで変化させて、衿の数理的作図を実験考察した。

即ちそれぞれの持出しの変化に応じた折り返り線の傾斜を三角函数によって算出し、次いで実測した後身頃の衿外廻線(衿幅に依って異なる)衿幅の数値とを与えて、求むる倒しの寸法(X)の値を三角函数及びラジアンにより算出した。尚計算の繁雜を避けるため、モノグラフに依る、簡単な作図法を考案した。

尚コットンカシミアを用いて、衿外廻線の誤差に依る